Metal Siding

金属サイディング新築外壁施工マニュアル

日本金属サイディング工業会

快適空間の創造をささえる。
[金属サイディング]

住宅に限らず建築物の外壁は、
人間が安全で健康的な生活を行うことの出来る環境を創り出すためのもの、
つまり雨、雪、風等自然環境に対する防御や外気温の遮断、
さらに火災の延焼防止など安全確保上重要な機能を持ったものでなければなりません。
それら外壁材の中で、施工性や意匠性、さらに断熱性や防火性等々に優れた特徴を持つ外壁材、
それが金属サイディングです。
金属サイディングは、単に成形加工しただけの金属板ではなく、
表面加工、接合部加工を施し、それに裏打ちのしん材を付加した乾式工法の複合外壁材です。
表面材は各種の塗装鋼板やアルミニウム合金塗装板、塗装ステンレス鋼板などの金属板を基材とし、
表面に意匠性に富む柄（スタッコ、木目、タイル柄等）が施してあり、
しん材としては硬質プラスチックフォーム（ウレタン、ヌレート等）、石膏ボード、ロックウール等を使用
しております。個人住宅から店舗、そして大型建築物まで、金属サイディングは幅広く使用されています。

より効果的なご使用と特性を充分理解していただくために、
本「施工の手引き」をご利用いただければ幸甚です。
なお、詳細につきましては日本金属サイディング工業会の加盟各社にお問い合わせください。

CONTENTS

1. 日本金属サイディング工業会は
　　通気構法を標準工法としています ——— 1
2. 住宅瑕疵担保履行法 ——— 2−3
3. 施工上の禁止事項 ——— 4−5
4. 施工上の注意点
　　施工上の注意点 ——— 6−7
　　割付けの確認 ——— 8
　　施工に使用する工具 ——— 9
5. 施工手順のポイント ——— 10
6. 施工要領 ——— 11
　　[1]木造縦張り工法 ——— 12−14
　　[2]木造横張り工法 ——— 15−17
　　[3]鉄骨縦張り工法 ——— 18−20
　　[4]鉄骨横張り工法 ——— 21−23
　　[5]シーリング工事 ——— 24
7. 施工例写真 ——— 25

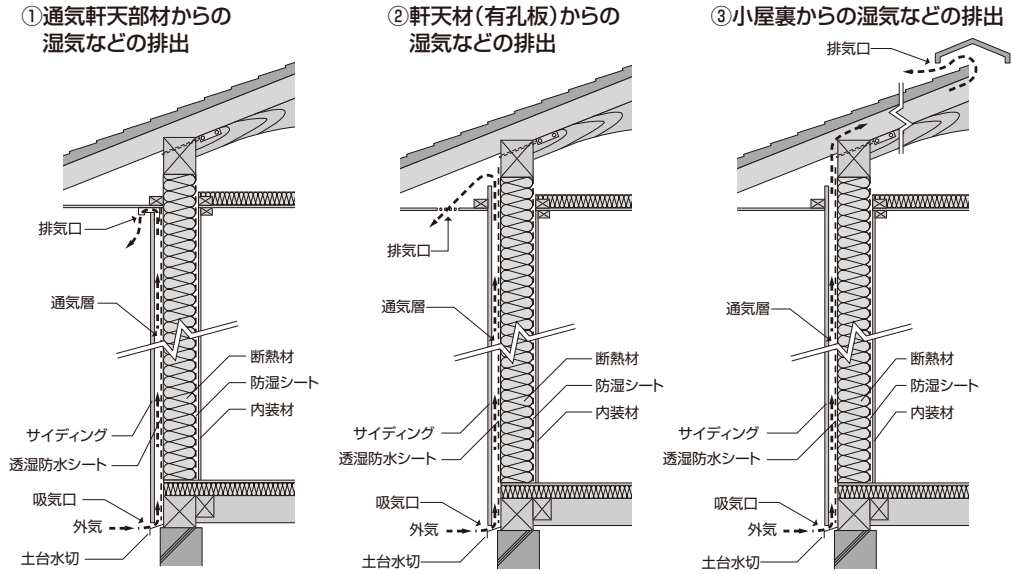
日本金属サイディング工業会は通気構法を標準工法としています

日本金属サイディング工業会では、壁体内結露を抑止するため、また住宅の長期耐久性と快適性を維持・向上させるため「通気構法」を標準工法としています。

通気構法のしくみ

通気構法は、壁体内の水分（湿気）を外部へ逃がす「透湿防水シート」を躯体に張り、「通気層」を設けるため15mm～21mm程度の胴縁を取付け、その上から外壁材を取付けます。その際に外気を取り入れるための「吸気口」と通気層を流れる空気と室内の水分（湿気）を屋外に放出する「排気口」を設けることで『通気構法』となります。

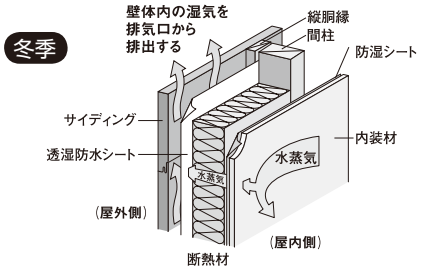
又、「吸気口」は土台水切部分とするのが一般的ですが、「排気口」については建物の形状や棟換気の有無により、下図のようなとり方があります。土台部・下屋根部などの胴縁は防腐処理を行ったもののご使用をおすすめします。



通気構法３つの効果

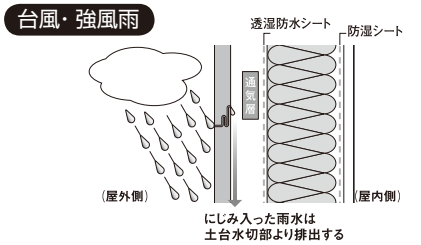
1. 壁体内結露を抑える効果（冬季）

冬場室内を暖めると空気中に水蒸気が多量に放散されます。また、なべ・やかん・浴室・人からも水蒸気が放散されるため、これらの水蒸気が幾分か内装材をぬけて壁体内へ侵入します。壁体内が密閉状態ですと、水蒸気の逃げ場がなく、壁体内で滞留し外気温で冷やされ壁体内結露をおこす原因になります。『通気構法』は壁体内に侵入した水蒸気を外気に逃がすことで、壁体内結露を抑えます。



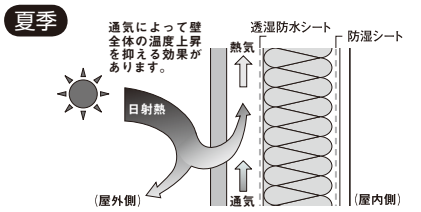
2. 室内側への雨水の浸入を抑える効果

台風・強風雨時には、サイディングの接合部などから雨水が浸入する場合があります。万一雨水がにじみ入った場合には、通気層を確保することで排出します。
また、躯体面には透湿防水シートを使用していますので、2重の防水効果があります。



3. 日射熱を遮熱する効果（夏季）

夏場の日射による建物内部への熱の伝導を通気によって遮断・放散し、室内温度の上昇を抑えます。



住宅品質確保法と住宅瑕疵担保履行法

新築住宅は『住宅品質確保法』により、売主および請負人に対して10年間の瑕疵保証責任を負うことが義務付けられています。さらに瑕疵担保責任の履行を確実なものとするために『住宅瑕疵担保履行法』が制定されました。

住宅品質確保法について

法律の概要

1. 瑕疵担保責任の強化

・売主・請負人に対して、10年間の瑕疵担保責任を義務化。
・基本構造部（下図A～I部）および雨漏り（下図J～L部）に関する10年間の責任。

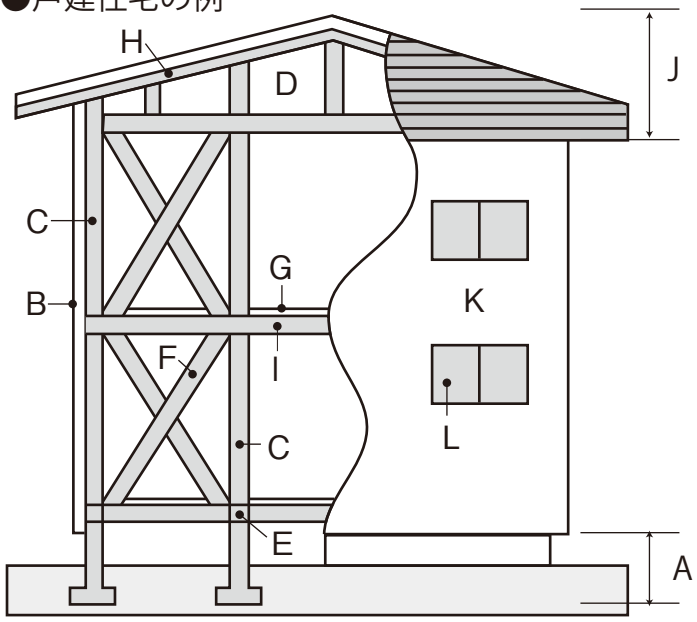
2. 住宅性能表示制度の新設

・住宅の性能を表示するための共通ルールが作られ、様々な住宅が相互比較できるようになった。

3. 紛争処理機関の設置

・欠陥住宅問題など、紛争について『指定住宅紛争処理機構』が設置された。

●戸建住宅の例



●構造耐力上主要な部分

基礎	A
壁	B
柱	C
小屋組	D
土台	E
斜材	F
床版	G
屋根板	H
構架材	I

●雨水の侵入を防止する部分

屋根	J
外壁	K
開口部	L

サイディング

構造部分には当たらない。
但し、壁倍率仕様を除く

住宅瑕疵担保履行法について

『特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保等に関する法律』（2007年5月30日公布）
⇒ 略称：「住宅瑕疵担保履行法」

法律制定の目的

瑕疵担保責任の履行を確実なものとすることにより、買主や発注者の利益保護を図るとともに、円滑な住宅供給を図ることを目的とします。　⇒ 安心して住宅購入ができるように制定された法律

法律の概要

1. 建設業者、宅建業者に「住宅建設瑕疵担保保証金の供託」又は「住宅瑕疵担保責任の保険契約」義務化
2. 住宅瑕疵担保責任保険法人の指定
3. 住宅瑕疵担保責任保険契約に係る新築住宅に関する紛争処理体制

住宅瑕疵担保責任保険を利用する場合

指定保険法人の設計施工基準

金属サイディングを使用した外壁の場合

・設計施工基準は、基本的な部分では指定法人共通ですが、細部では異なっている部分があります。

・契約する保険法人の設定する『設計施工基準』に則り施工することが重要です。

項目	設計・施工基準
構法	通気構法とする。(胴縁による)
防水紙	[1.材料] JIS A6111(透湿防水シート)適合または同等以上の性能を有するもの。 [2.施工方法] 上下の重なり90mm以上、左右の重なり150mm以上。
胴縁	[材料] 厚さ15mm以上、幅45mm以上。 但し、サイディング材ジョイント部に使用するものは幅90mm以上。(幅45㎜以上で2枚合わせを含む)
サイディング材	[1.材料] JIS A6711(金属サイディング)に適合または同等の性能を有するもの。 留め付け用の釘・ビスはメーカー指定のものとする。 [2.施工方法] 釘・ビスで留めつける。
開口部	防水テープの施工必須
シーリング材	[材料] シーリング材およびプライマーはメーカー指定のものを使用する。

※ その他詳細の基準については、各指定保険法人の設計施工基準を確認する必要があります。

※ 設計施工基準に規定されている以外の材料・工法を使用する場合には、保険法人の承認が必要です。

施工上の禁止事項

次のようなご使用はトラブルの原因となります。金属サイディングは、外壁以外に使用しないでください。

1 耐火構造への施工

耐火構造、1時間準耐火構造が要求される場所（建物）への施工はできません。

耐火ボード等を下地としても上記地域には施工できません。（一部対応商品もあります。）

耐火構造

2 高さ13mを超える建築部位への施工

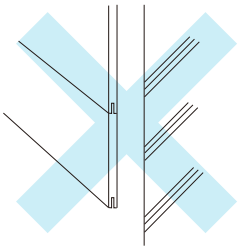
風圧により、かん合部・釘打部のゆるみが生じ、落下のおそれがあります。
※各種法令及び会員各社の設計施工基準等による高さ制限があります。
（一部対応商品もあります。）

軒高9m超

棟高13m超

3 直張り施工

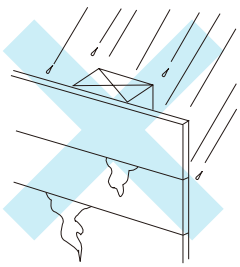
壁体内結露や躯体内への雨水の侵入を抑制するため通気構法を標準工法としています。



直張り

4 金属サイディング裏面が雨・風の影響を直接受ける部位への施工

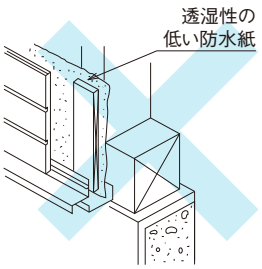
裏面はアルミ箔等となっており、裏面からの含水や乾燥の繰り返しにより、反り、変形の原因となります。



裏面への雨掛かり

5 透湿性の低い防水紙の使用

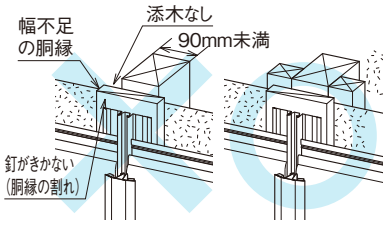
透湿性の低い塩ビフィルム等を張るのは、お避けください。結露の原因となります。
※透湿防水シートをおすすめします。



透湿性の低い防水紙

6 下地材の幅90㎜未満でのジョイント部の施工

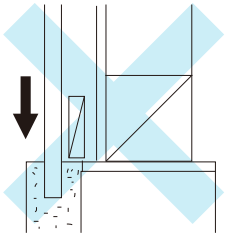
下地材の幅が90mm未満の場合は、釘またはビスの留め付け時、板端部からの距離が不足し、割れなどの原因となります。必ず添木をしてください。



下地材の幅90㎜未満

7 基礎部のモルタルへの埋込み施工

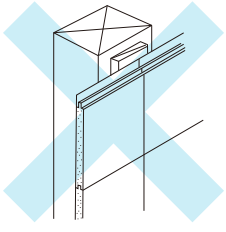
塗膜剥離、腐食、反り、変形の原因となります。



モルタルへの埋込み施工

8 役物未使用（ジョイナー・入隅部）の突付け施工

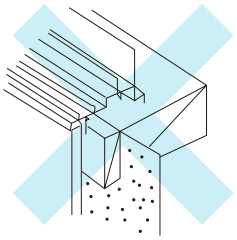
役物未使用の突付け施工では、突付け部より金属サイディング本体に雨水等が含水し、反り、変形の原因になります。



役物なし施工

9 開口部(サッシ等)の開口部役物なし施工

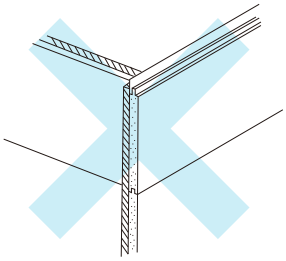
役物なしで施工すると、サッシ廻りの伝い水が金属サイディング本体に含水し、反り、変形の原因となります。



役物なし施工

10 切断部の露出施工

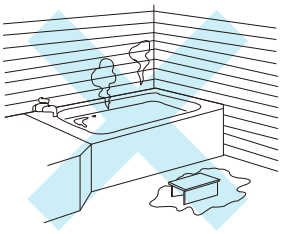
切断部の露出施工は金属サイディング芯材の劣化および、金属サイディング本体への含水により反り、変形の原因となります。



役物なしでの切断部の露出

11 高温、多湿環境での使用および施工

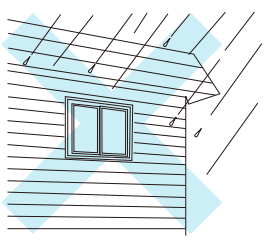
異常な水分や熱等の影響を受ける場所への施工は、金属サイディングの反り、変形の原因となります。



外壁以外への施工

12 傾斜のあるパラペットへの施工

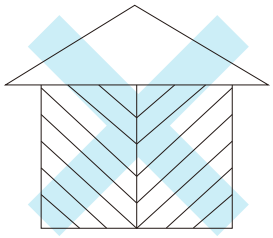
垂直の壁面に比べ、屋根材に近い過酷な条件となり、表面塗膜の劣化速度を速める原因となります。また、実(さね)部からの伝い水が垂直面に比べ滞留しやすく、金属サイディング本体に含水し、反り、変形の原因となります。



パラペット施工

13 斜め張り施工

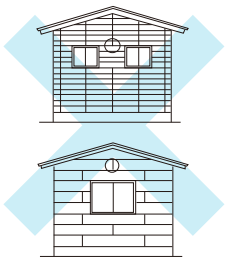
金属サイディング本体実(さね)部からの伝い水により、役物部を通って本体内部に含水し、反り、変形の原因となります。



斜め張り

14 サイディング連結部の揃わない乱張り施工

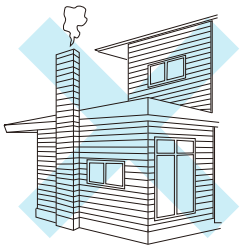
ジョイナー等の施工不良の原因となり外観が見苦しくなります。また、役物より伝わった水が本体内部へ含水し、反り、変形の原因となります。



乱張り

15 集合煙突への施工

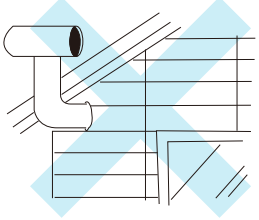
煙突内で発生した水分や熱の影響により、金属サイディングの反り、変形の原因となります。



煙突施工

16 金属サイディングに高温部(管)が直接接触する部位への施工

給湯配管、煙突等に直接触れたり、蒸気が直接本体に当たる部位への施工は、お避けください。熱の影響で反り、変形、表面塗膜の耐久性の低下、腐食等の原因となります。



高温部への施工

施工上の注意点

⚠ 注意

●シーリング材
純正シーリング材又は推奨シーリング材を使用してください。

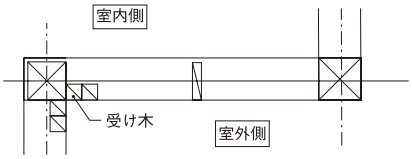
●純正部材をご使用ください。
施工にあたっては純正役物・施工部材をご使用ください。

⚠ 注意

●増改築等の場合
既存の建物に増改築等によって新設の建物を接続する場合、またがって施工せず、必ずエキスパンションジョイントなどで縁を切って施工してください。建物の挙動の違いによって問題が起こり易いので、既存の建物が同じサイディングを使用している場合でも同様にエキスパンションジョイントを設けてください。

⚠ 注意

●下地を平滑にしてください。
下地の平滑さをたもつため、柱・間柱は外づらに合せてください。胴縁間隔は500mm以内を基準とし、通し柱と柱の寸法が異なる場合にも、図のように外づら合せとしてください。また入隅部分などには、取付けのために受け木が必要となります。



⚠ 注意

●サイディング表面からの釘打ちをする場合は、必ず先孔をあけてください。

⚠ 注意

●エアーネイラーは、低めの圧力に設定し、仮留めのみに使用してください。

⚠ 注意

●指定箇所には、必ずシーリング施工をしてください。

⚠ 注意

●透湿防水シート等の施工後60日以内に外壁を施工してください。また、内装を張らない建物などで室内側で防水紙に太陽光線があたるような場合、紫外線劣化で防水性を損なうことがあります。

⚠ 注意

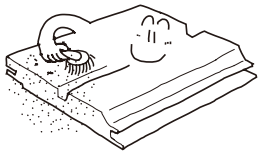
●本体の裏面紙にしわが発生している場合がありますが、商品の性能に影響はありません。

⚠ 注意

●本体のかん合部及び役物はメーカー指定の状態に確実にはめ込んでください。

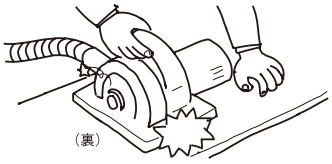
⚠ 注意

●切断の際は、切粉がサイディングに付着しないようにしてください。また切断時に発生した切粉は、はけ等を利用して完全に取り除いてください。もらいサビの原因になります。



⚠ 注意

●切断は防塵電動丸のこ（金属用チップソー）を使用し、サイディング表面のキズ防止のため、パネルの裏面から行ってください。



⚠ 注意

●塗装面にキズが付いた場合には、専用タッチアップペイントで補修してください。

⚠ 注意

●銅などの異種金属、銅屋根からの雨水が接触すると、電食が起こる場合があります。異種金属との取り合いにはご注意ください。

⚠ 注意

●給湯器や発電機等から排出されるガスや水蒸気の影響により、サビや変色が発生する場合があります。排気ガスや水蒸気があたらないように機器の設置を行ってください。

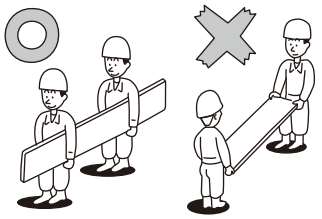
⚠ 注意

●サイディングの表面にハシゴ・脚立などを直接立て掛けないでください。サイディング表面にゆがみやへこみなどの変形が発生します。

⚠ 注意

●開梱後、サイディングの持ち運びは、小端立てにして運んでください。

●水平に持つことや、サイディングの両端を持って吊るすような運び方は避けてください。

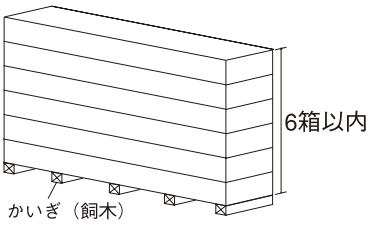


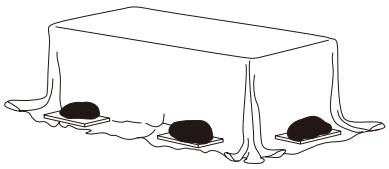
⚠ 注意

●必ず屋内に保管して下さい。施工現場で止むを得ず屋外に置く場合には、防水シート、その他、適当なものでおおって、雨水等がかからないように保護してください。

●必ずパレットの上に置いて下さい。止むを得ずパレットの上に置けない場合には、角材を飼木にし、サイディングが変形しないよう適切な本数を不陸のないように配置し、水平に置いてください。

●高温多湿な場所はさけてください。





P

⚠ 注意

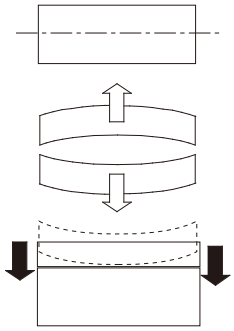
●梱包は上部から開けて取り出してください。小口から引き出すとキズ発生の原因となります。

⚠ 注意

●残材処理は法律に従ってください。

⚠ 注意

●本体切断後の反りについて サイディングを長手方向に切断した場合には柄付けによる表面材のひずみのため、サイディングの反り現象が発生することがあります。
施工の際には端部を押し込み、おさえながらくぎ留めを行ってください。



⚠ 注意

●タッチアップは、完全同色ではありません。塗布面積は特に注意し、小さくしてください。補修面積が大きくなると違和感が生じます。

⚠ 注意

●車両などで運搬する場合には平積みにしてください。サイディングが変形するおそれがあります。

●ロープなどで固定する場合には変形防止のためカド当てなどを併用してください。

金属サイディングを安全にご使用いただくために

1. **強風、雨天、降雪時の高所作業は中止してください。落下事故の危険があります。**
2. **溶接、溶断などの火の粉が飛ぶところには製品を置かないでください。**
3. **製品切断時、火の粉が飛びますので、周囲に可燃物を置かないでください。**
4. **製品切断時には、保護メガネ・マスクを着用してください。**
5. **金属サイディング表面材は、導電性があるので電気配線には注意してください。**
6. **施工場所の安全を確保・確認してください。**
   - **①上部からの落下物の危険がある場合は、施工を中止してください。**
   - **②安全帽、安全帯を使用してください。**
   - **③周囲の資材は整理し、長尺製品の作業安全に注意してください。**
7. **製品は長尺物です。滑り止めのついた手袋などを着用して丁寧に取り扱ってください。**

施工上の注意点

割付けの確認

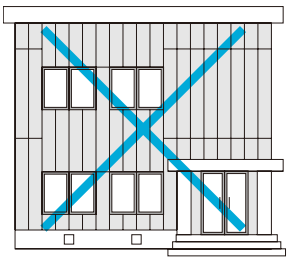
建物のデザイン、品質、施工性、コスト等の観点からきわめて重要な事項であり、施工に先立って設計段階で十分に検討のうえ、関係者によく徹底しておく必要があります。割付けによっては、材料のロス及び施工効率に大幅に影響を及ぼしますので、建物のモジュール、柱、間柱の位置、開口部の位置、使用する役物、サイディングの働き幅等を考慮して建物全体としてバランスよく割付けることが大切です。また、防水機能等の品質に関しても、複雑な取合いを必要とする割付けを行うと問題が生じやすく、開口部周辺での小幅物、または複雑な切り欠きが生じないように、可能な限り割付け上配慮することも重要です。

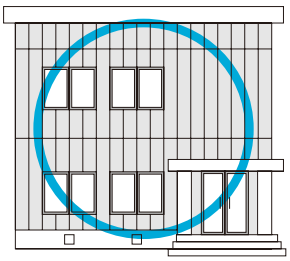
- 割付け時に考慮する項目
  - デザイン
    - 外観意匠性（1・2階の上下通り、外壁面の左右バランス等）
    - 本体の張り分け（別デザインのかん合可否、役物での見切りの有無）
  - 品質
    - 防水機能（複雑な取合い、躯体の動き等）
    - 本体の反り・変形（不連続な役物の使用、クリアランス不足など）
  - 施工性
    - 材料寸法（本体の長さ・有効働き幅、役物の長さ・見え掛り・のみ込み寸法等）
    - 加工・張り手間（小幅物や複雑な切り欠き加工を抑制）
    - 建物の構造（柱・間柱の位置等）
  - コスト
    - 材料ロス（本体の板取り・役物のつなぎ等）
    - 建物の構造（下地材の有無、補強の要否）

割付け方法

●縦割り時のポイント

・下方から割付をし、連結部材（中間水切のライン）は途中で途切れないように連続させてください。
・開口部周辺では、小幅物ができないように連結部材（中間水切のライン）を配置します。
・はねだしベランダの付根位置には連結部材（中間水切のライン）を設けないでください。
・上下アンバランスな位置に連結部材（中間水切のライン）を配置するのはできるだけさけてください。



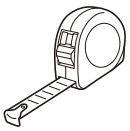


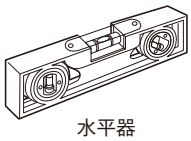
●横張り時のポイント

・開口部に連結部材を配置しないように割付けてください。
・連結部材は原則として柱・間柱の位置に設けます。
・ただし、柱・間柱で芯がずれる位置に設ける場合は、補助桟を設置してください。
・開口部周辺で、小幅物が出来ないように連結部材を配置します。
・はねだしベランダの付根位置には目地を設けないでください。
・左右アンバランスな位置に連結部材を配置するのはできるだけさけてください。

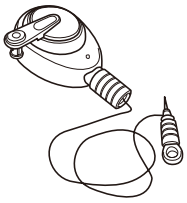
施工に使用する工具

基準墨出時に使用する工具

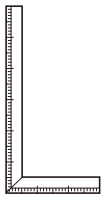

コンベックス

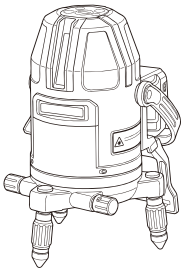

水平器

墨　壷


チョークライン

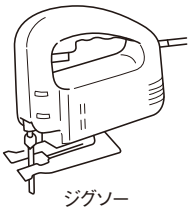
下げ振り

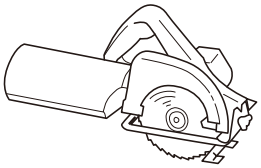

差し金（曲尺）


レーザー墨出し器

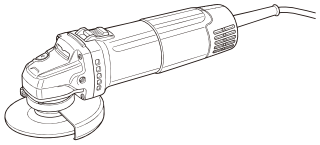
水糸

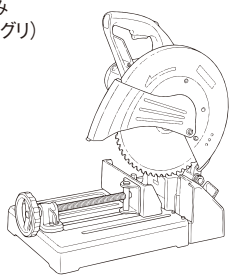
金属サイディング・役物カット時に使用する工具


ジグソー

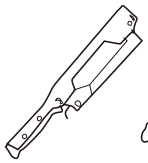

丸のこ

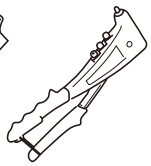
金切りばさみ
（直刃、柳刃、エグリ）

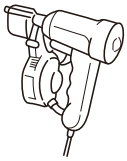

グラインダー


切断機

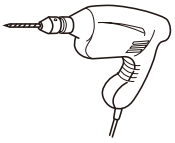
取り付け時に使用する工具

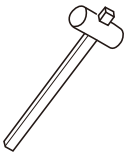

タッカー

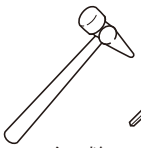

リベッター


エアーネイラー

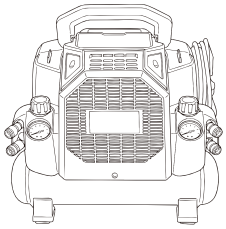
充電ドリルドライバー
（インパクトドライバー）

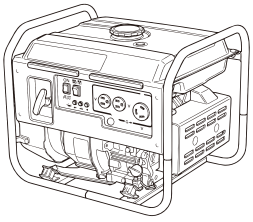

ドリルドライバー


木　槌

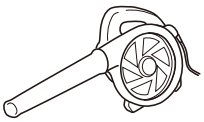

金　槌

つかみ

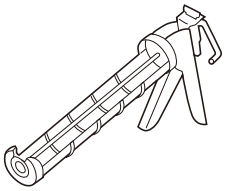

コンプレッサー

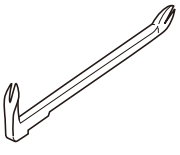

発電機

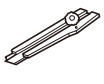
その他の工具類

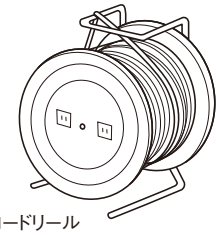

ブロワ
（ゴミを払う）

はけ
（切粉を払う）

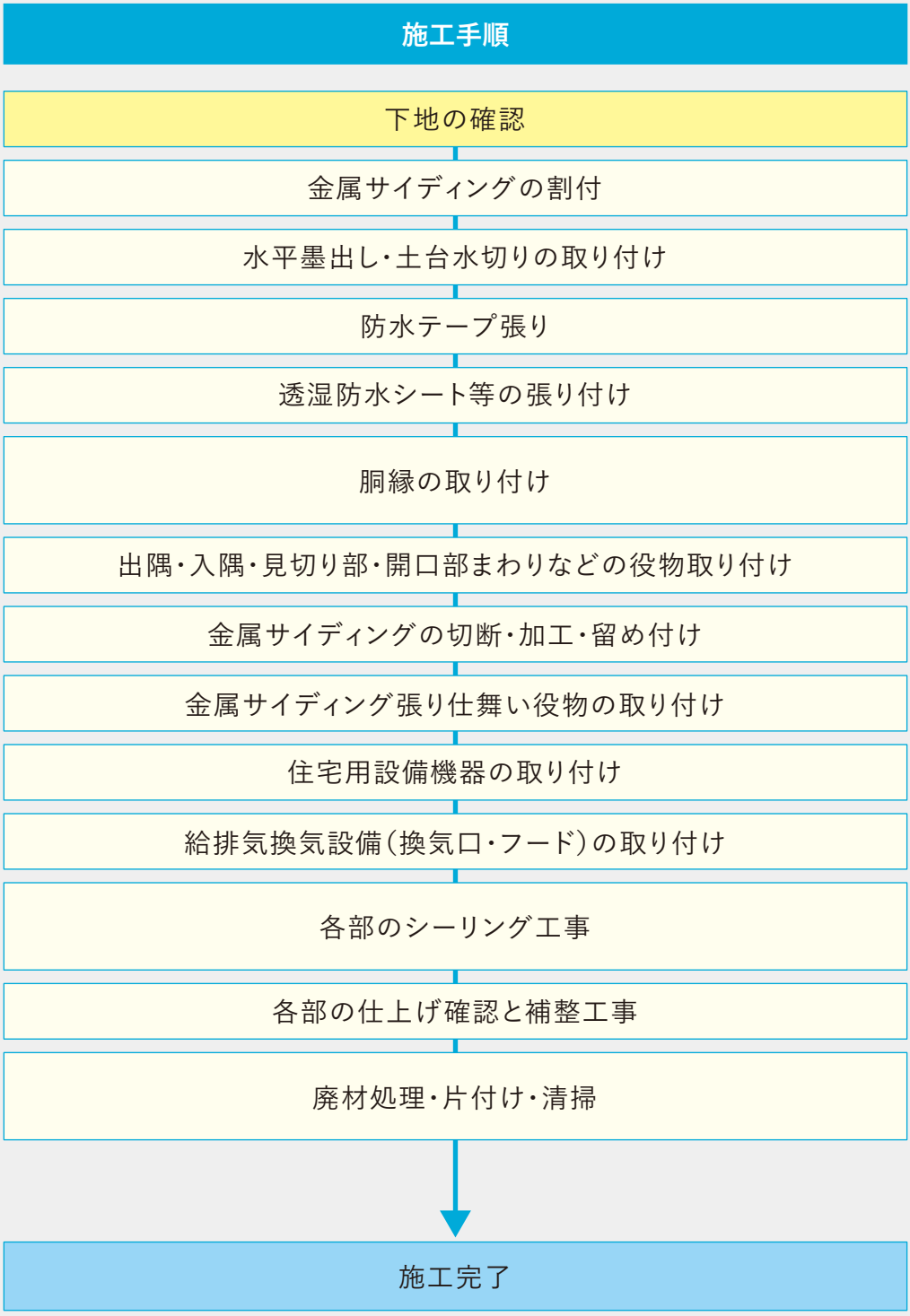

シーリングガン


釘抜き


カッター


コードリール

施工手順のポイント


施工手順
下地の確認
金属サイディングの割付
水平墨出し・土台水切りの取り付け
防水テープ張り
透湿防水シート等の張り付け
胴縁の取り付け
出隅・入隅・見切り部・開口部まわりなどの役物取り付け
金属サイディングの切断・加工・留め付け
金属サイディング張り仕舞い役物の取り付け
住宅用設備機器の取り付け
給排気換気設備（換気口・フード）の取り付け
各部のシーリング工事
各部の仕上げ確認と補整工事
廃材処理・片付け・清掃
施工完了

施工要領

金属サイディングの優れた施工性、その理由

数ある外装材のなかで、金属サイディングは、
軽量で加工性が良く、
「釘留め」または「ビス留め」と「かん合方式」により、
施工が簡単で、短期間で美しい仕上がりとなります。

本マニュアル（施工の手引き）では、基本的な
施工基準や施工方法の参考例について解説します。
本マニュアル（施工の手引き）で紹介する
施工方法について、保証するものではありません。
※施工基準、施工方法の詳細は各会員メーカーにご相談ください。

木造縦張り工法

木造横張り工法

鉄骨縦張り工法

鉄骨横張り工法

下地の作り方　土台回りの納まり

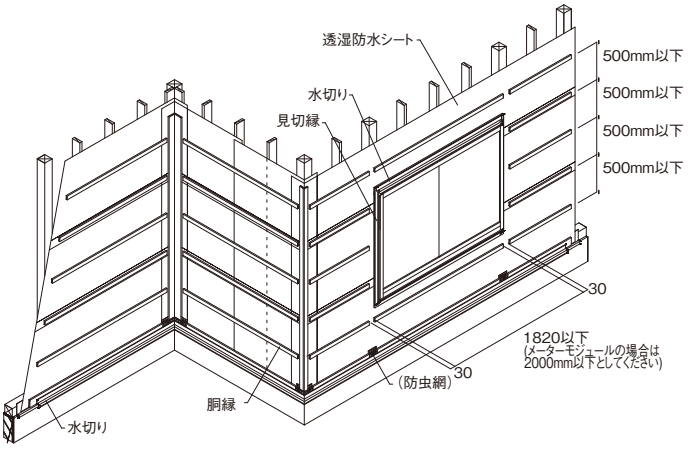
●下地材料は十分乾燥し、反り、曲りの少ないものを使用してください。

●柱・梁・土台など、必ず下げ振りや水平器等により、垂直・水平を確認してください。

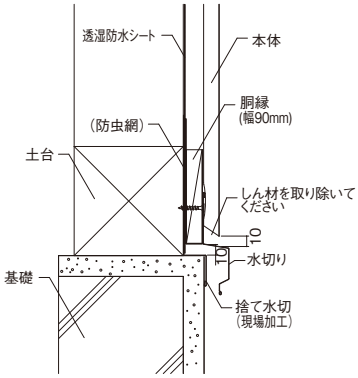
●下地の間柱、あるいは胴縁の間隔は500mm以下を標準として取り付けてください。積雪のある地域では、雪の積もる高さまで303mm間隔以下とする等の対処をしてください。

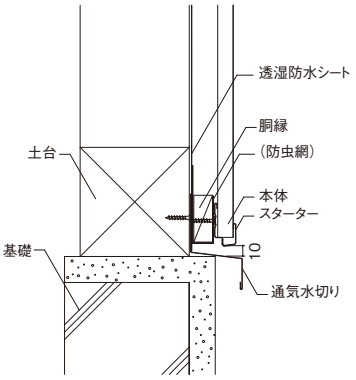
●通気構法では、透湿防水シート等の上に横胴縁を施工し、金属サイディングを取り付けてください。

●透湿防水シート等の重ねしろは、鉛直方向で90mm以上、水平方向で150mm以上（構造用面材が無い場合は間柱間隔）としてください。



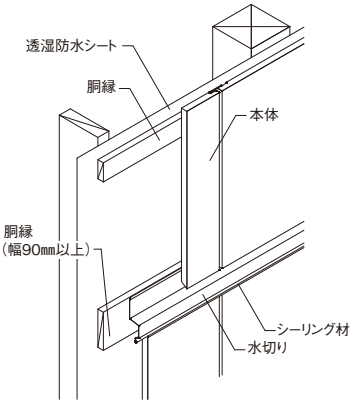
スターター使用例

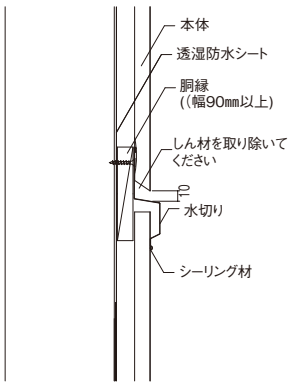




縦継ぎ部分の納まり

●縦継ぎ部分の納めには、水切りを使用してください。また、その場合の胴縁は、90mm幅または45mm幅2列の胴縁を使用してください。

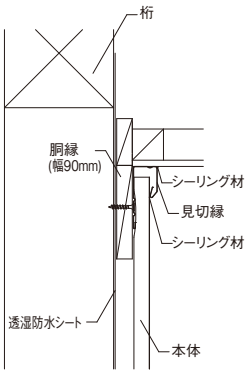




軒部の納まり

●軒部分の納めには、 見切縁を使用してください。

●軒裏、小屋裏へ通気ができるように胴縁を施工してください。

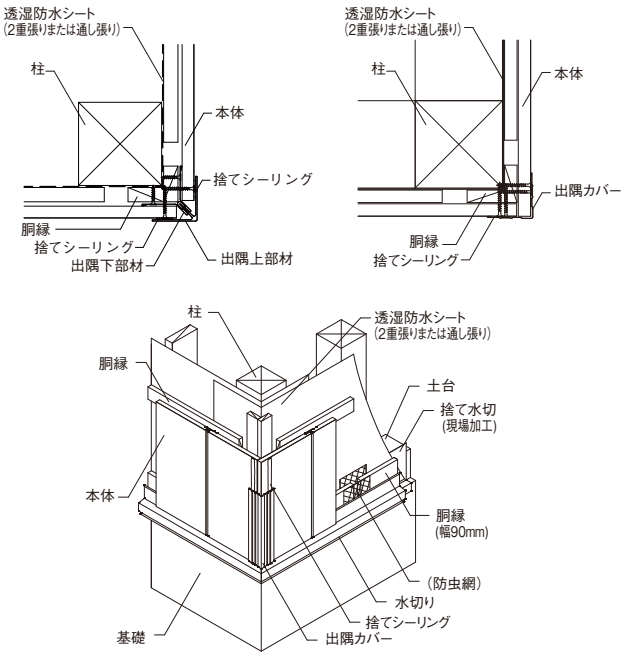


出隅部分の納まり

●出隅部分では透湿防水シート等を2重張りまたは通し張りにしてください。

●出隅部分の納めには、部材を使用してください。

出隅カバー使用例



水切り(部材)の出隅部加工法

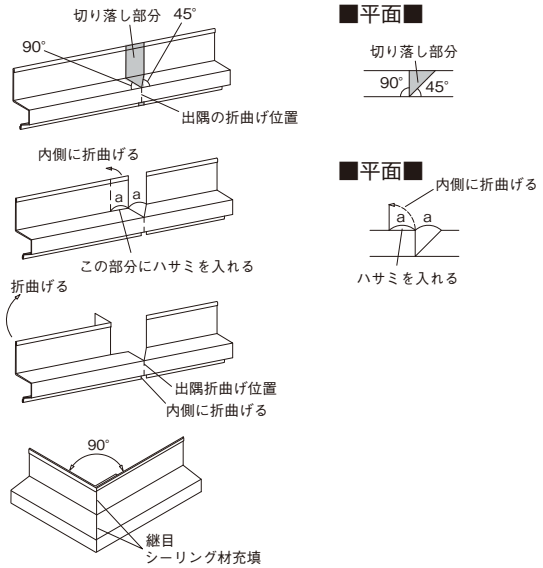
●出隅の折曲げ位置を決めます。次に、図のように一方を90°、他方を45°の方向に切り込みを入れ、切り落します(水切下部の加工も同じ)。

●90°の側の水切り立上がり下部に、切り落し部分の寸法に等しくa寸法をとり(図示)、この部分にハサミを入れます(水切下部の加工も同じ)。

●水切り立上がりの一部を、図のように内側に90°折曲げます(水切下部の加工も同じ)。

●出隅の折曲げ位置で全体を90°に折曲げます。継目部分にシーリング材を十分に施します。

出隅部加工

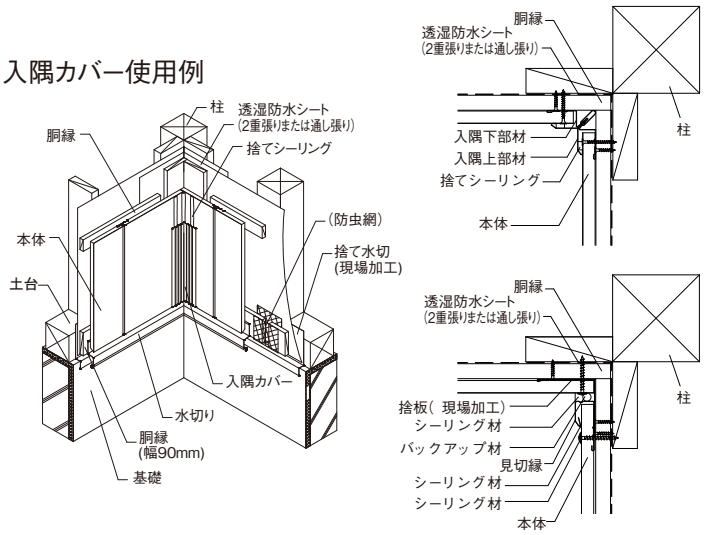


入隅部分の納まり

●入隅部分では透湿防水シート等を2重張りまたは通し張りにしてください。

●入隅部分の納めには、部材を使用してください。

入隅カバー使用例



施工要領　[1]木造縦張り工法

水切り(部材)の入隅部加工法

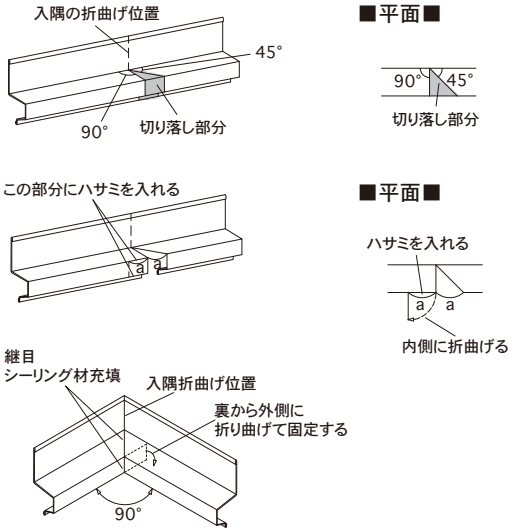
●入隅の折曲げ位置を決めます。次に、図のように一方を90°、他方を45°の方向に切り込みを入れ、切り落します（水切下部の加工も同じ）。

●90°の側の水切り立下がり部に、切り落し部分の寸法に等しくa寸法をとり（上下2箇所）、この部分にハサミを入れます。

●入隅の折曲げ位置で全体を90°に折曲げます。次に、ハサミを入れた立下りの一部を、裏から90°外側に折曲げて固定します（水切下部の加工も同じ）。

●継目部分にシーリング材を十分に施します。

入隅部加工

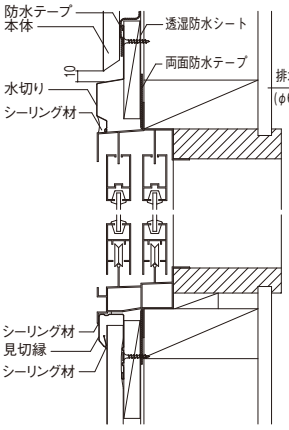


半外付けサッシ回りの納まり　外付けサッシ回りの納まり

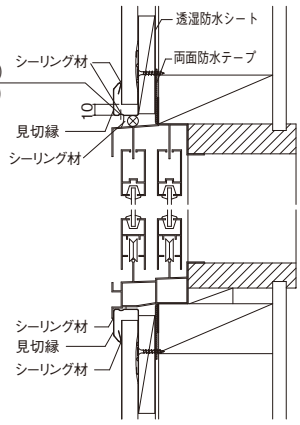
●窓回り（開口部回りや換気口回りを含む）の納めには、雨仕舞に万全の注意が必要です。予め防水テープ（両面接着）を貼った後に透湿防水シート等を張り、浮き、シワのないように強く圧着させてください。また、サッシと部材の隙間等には、必ずシーリングしてください。

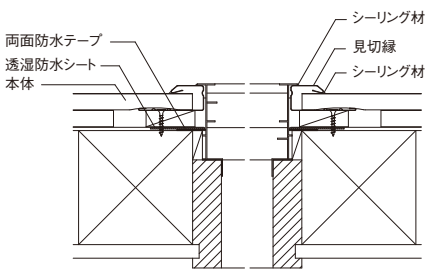
半外付けサッシ回りの納まり

水切り使用例



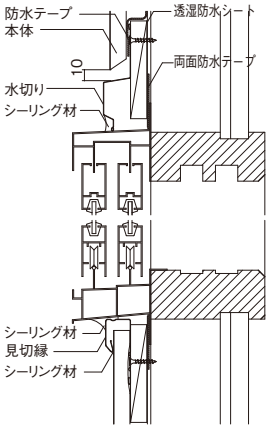
見切縁(排水孔付)使用例



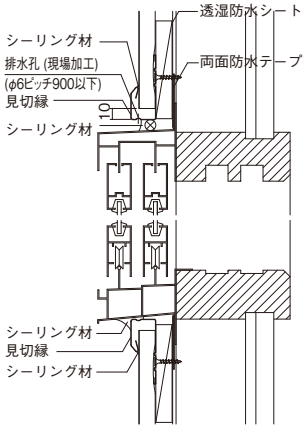


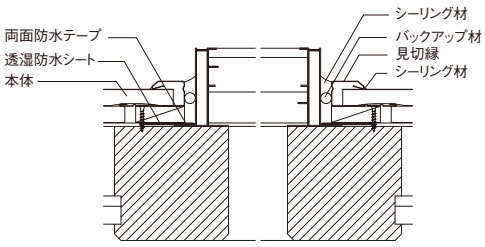
外付けサッシ回りの納まり

水切り使用例



見切縁(排水孔付)使用例





※施工要領の詳細は、各会員会社にお問い合わせください。

施工要領　[2]木造横張り工法

下地の作り方　土台回りの納まり

●下地材料は十分乾燥し、反り、曲りの少ないものを使用してください。

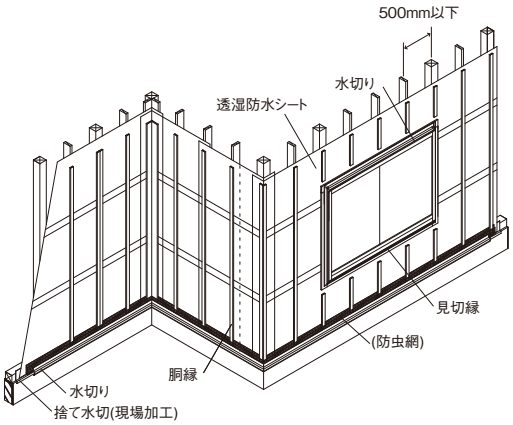
●柱・梁・土台など、必ず下げ振りや水平器等により、垂直・水平を確認してください。

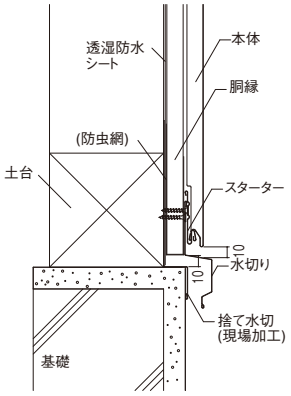
●下地の間柱、あるいは胴縁の間隔は500mm以下を標準として取り付けてください。積雪のある地域では、雪の積もる高さまで303mm間隔以下とする等の対処をしてください。

●通気構法では、透湿防水シート等の上に縦胴縁を施工し、金属サイディングを取り付けてください。

●水切り及びスターターは、水平器等により水平を確認して取り付けてください。

●透湿防水シート等の重ねしろは、鉛直方向で90mm以上、水平方向で150mm以上（構造用面材が無い場合は間柱間隔）としてください。

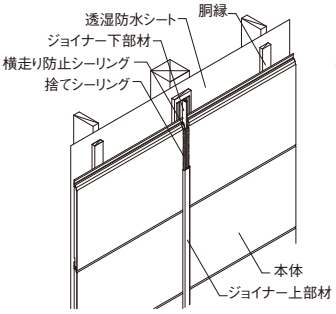


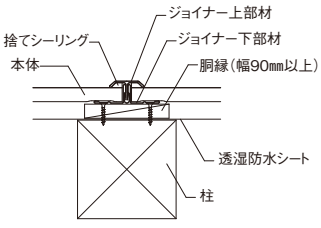


横継ぎ部分の納まり

●横継ぎ部分の部材（ジョイナー）には、本体の厚みや形状によって様々な分割タイプがあります。

●ジョイナーと金属サイディングとの取り合い部には、必ずシーリングしてください。

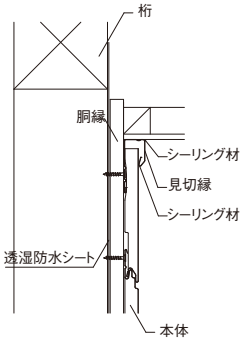




軒部の納まり

●軒部分の納めには、見切縁を使用してください。

●軒裏、小屋裏へ通気ができるように胴縁を施工してください。



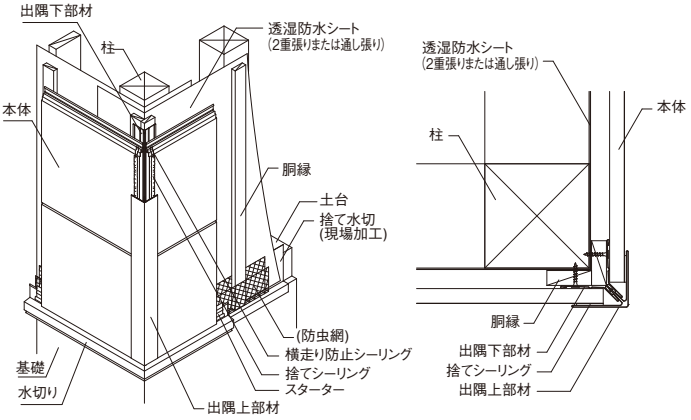
施工要領　[2]木造横張り工法

出隅部分の納まり

●出隅部分では透湿防水シート等を2重張りまたは通し張りにしてください。

●金属サイディングと部材との取り合い部には、必ずシーリングしてください。

【分割タイプ使用例】



水切り(部材)の出隅部加工法

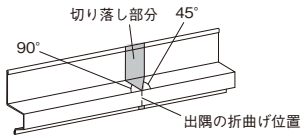
●出隅の折曲げ位置を決めます。次に、図のように一方を90°、他方を45°の方向に切り込みを入れ、切り落します(水切下部の加工も同じ)。

●90°の側の水切り立上がり下部に、切り落し部分の寸法に等しくa寸法をとり(図示)、この部分にハサミを入れます(水切下部の加工も同じ)。

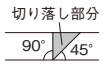
●水切り立上がりの一部を、図のように内側に90°折曲げます(水切下部の加工も同じ)。

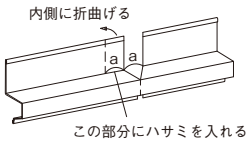
●出隅の折曲げ位置で全体を90°に折曲げます。継目部分にシーリング材を十分に施します。

出隅部加工

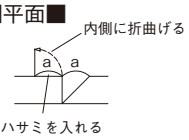


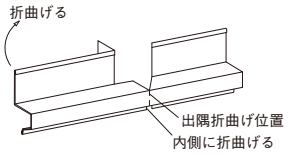
■平面■

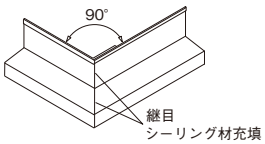




■平面■





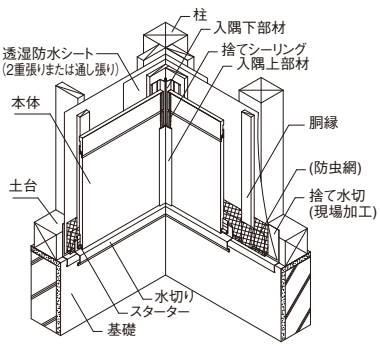


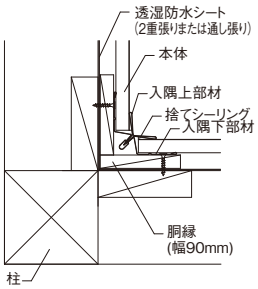
入隅部分の納まり

●雨仕舞に万全を期すため、入隅部分では透湿防水シート等を2重張りまたは通し張りにしてください。

●金属サイディングと部材との取り合い部には、必ずシーリングしてください。

【分割タイプ使用例】





水切り(部材)の入隅部加工法

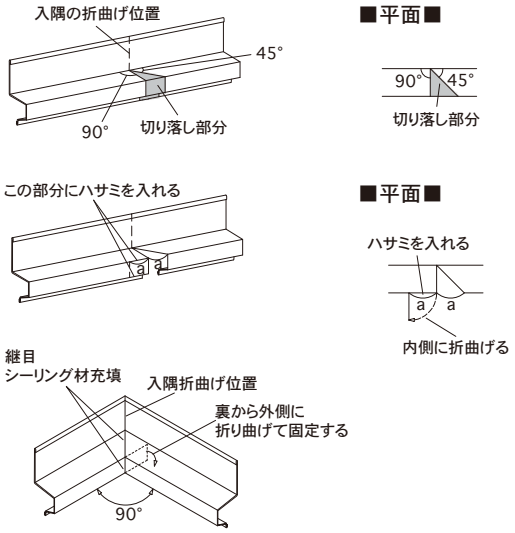
●入隅の折曲げ位置を決めます。次に、図のように一方を90°、他方を45°の方向に切り込みを入れ、切り落します（水切下部の加工も同じ）。

●90°の側の水切り立下がり部に、切り落し部分の寸法に等しくa寸法をとり（上下2箇所）、この部分にハサミを入れます。

●入隅の折曲げ位置で全体を90°に折曲げます。次に、ハサミを入れた立下りの一部を、裏から90°外側に折曲げて固定します（水切下部の加工も同じ）。

●継目部分にシーリング材を十分に施します。

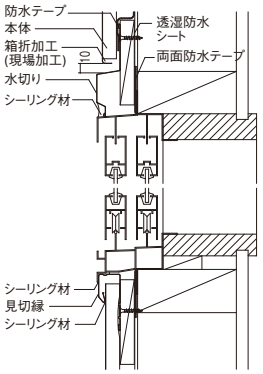
入隅部加工



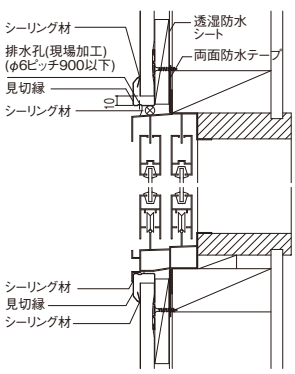
半外付けサッシ回りの納まり　外付けサッシ回りの納まり

●窓回り（開口部回りや換気口回りを含む）の納めには、雨仕舞に万全の注意が必要です。予め防水テープ（両面接着）を貼った後に透湿防水シート等を張り、浮き、シワのないように強く圧着させてください。また、サッシと部材の隙間等には、必ずシーリングしてください。

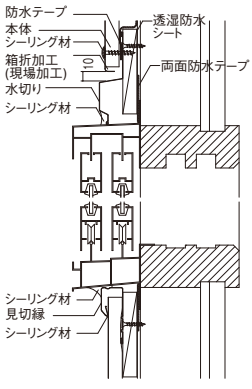
【水切り使用例】



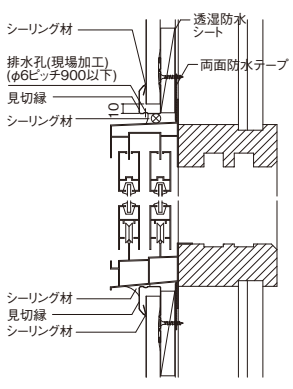
【見切縁(排水孔付)使用例】

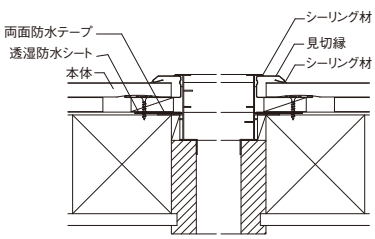


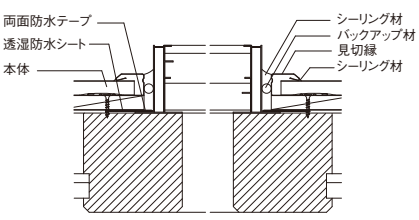
【水切り使用例】



【見切縁(排水孔付)使用例】







※施工要領の詳細は、各会員会社にお問い合わせください。

施工要領　[3]鉄骨縦張り工法

土台回りの納まり

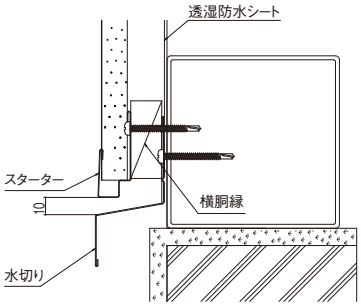
●柱・梁・土台など、必ず下げ振りや水平器等により、垂直・水平を確認してください。

●下地の間柱、あるいは胴縁の間隔は606mm以下（910mm以下の商品もあります）を標準として取り付けてく ださい。※詳細については会員会社へお問い合わせください。
積雪のある地域では、雪の積もる高さまで303mm間隔以下とする等の対処をしてください。

●通気構法では、透湿防水シート等の上に横胴縁を施工し、金属サイディングを取り付けてください。

●透湿防水シート等の重ねしろは、鉛直方向で90mm以上、水平方向で150mm以上（構造用面材が無い場合は間柱間隔）としてください。

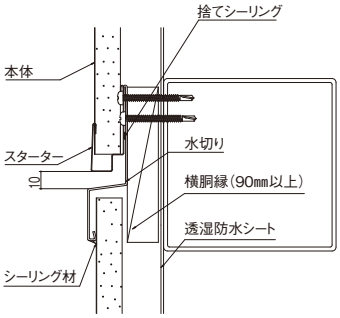
【スターター使用例】



縦継ぎ部分の納まり

●縦継ぎ部分の納めには、水切りを使用してください。また、その場合の胴縁は、90mm幅または45mm幅2列の胴縁を使用してください。

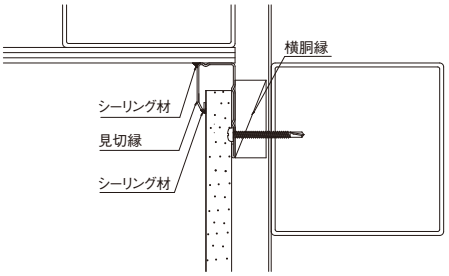
【スターター使用例】



軒部の納まり

●軒部分の納めには、見切縁を使用してください。

●軒裏、小屋浦へ通気ができるように胴縁を施工してください。

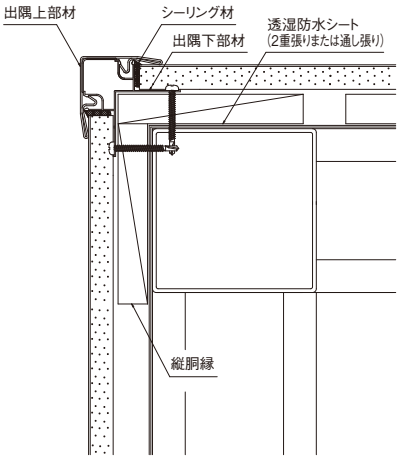


出隅部分の納まり

●出隅部分では透湿防水シート等を2重張りまたは通し張りにしてください。

●出隅部分の納めには、部材を使用してください。

【分割タイプ使用例】



水切り(部材)の出隅部加工法

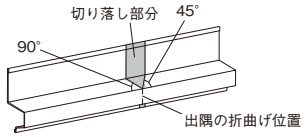
●出隅の折曲げ位置を決めます。次に、図のように一方を90°、他方を45°の方向に切り込みを入れ、切り落します（水切下部の加工も同じ）。

●90°の側の水切り立上がり下部に、切り落し部分の寸法に等しくa寸法をとり（図示）、この部分にハサミを入れます（水切下部の加工も同じ）。

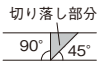
●水切り立上がりの一部を、図のように内側に90°折曲げます（水切下部の加工も同じ）。

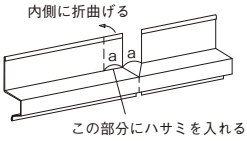
●出隅の折曲げ位置で全体を90°に折曲げます。継目部分にシーリング材を十分に施します。

出隅部加工

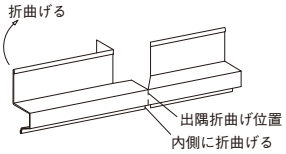


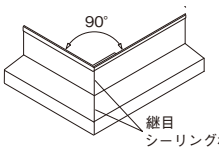
■平面■





■平面■



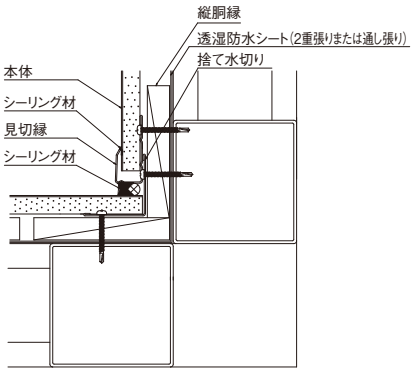


入隅部分の納まり

●入隅部分では透湿防水シート等を2重張りまたは通し張りにしてください。

●入隅部分の納めには、部材を使用してください。

【見切縁使用例】



施工要領　[3]鉄骨縦張り工法

水切り(部材)の入隅部加工法

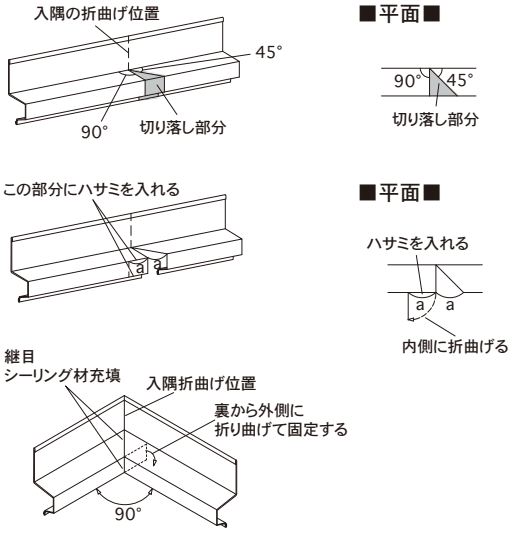
●入隅の折曲げ位置を決めます。次に、図のように一方を90°、他方を45°の方向に切り込みを入れ、切り落します(水切下部の加工も同じ)。

●90°の側の水切り立下がり部に、切り落し部分の寸法に等しくa寸法をとり(上下2箇所)、この部分にハサミを入れます。

●入隅の折曲げ位置で全体を90°に折曲げます。次に、ハサミを入れた立下りの一部を、裏から90°外側に折曲げて固定します(水切下部の加工も同じ)。

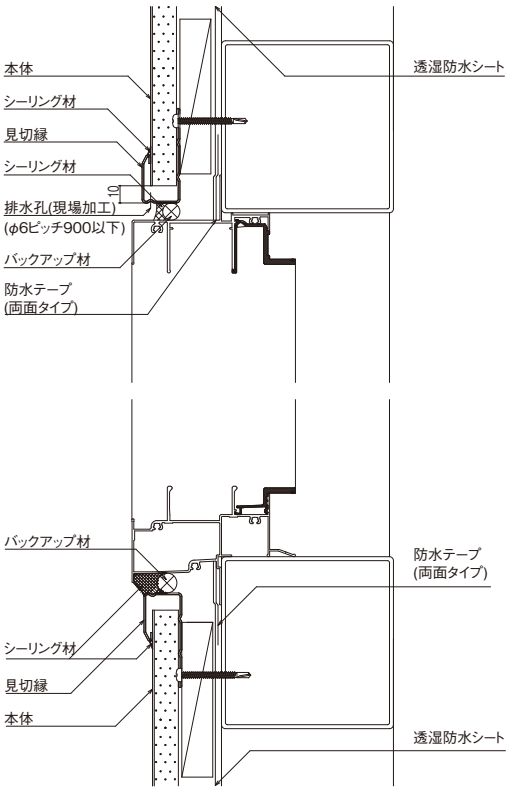
●継目部分にシーリング材を十分に施します。

入隅部加工

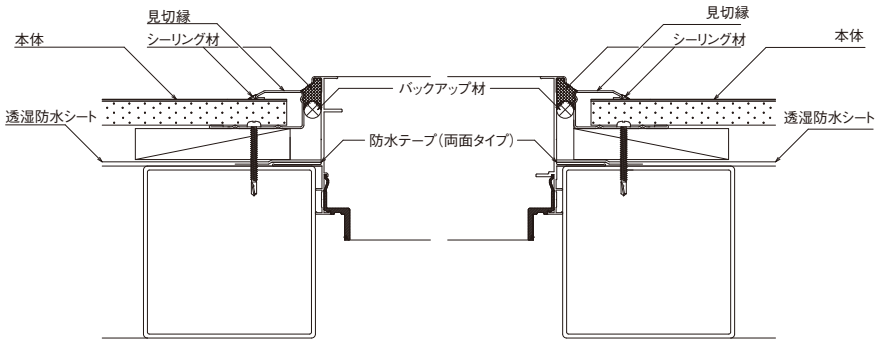


半外付けサッシ回りの納まり

●窓回り(開口部回りや換気口回りを含む)の納めには、雨仕舞に万全の注意が必要です。予め防水テープ(両面接着)を貼った後に透湿防水シート等を張り、浮き、シワのないように強く圧着させてください。また、サッシと部材の隙間等には、必ずシーリングしてください。



【見切縁(排水孔付)使用例】



※施工要領の詳細は、各会員各社にお問い合わせください。

施工要領　[4]鉄骨横張り工法

土台回りの納まり

●柱・梁・土台など、必ず下げ振りや水平器等により、垂直・水平を確認してください。

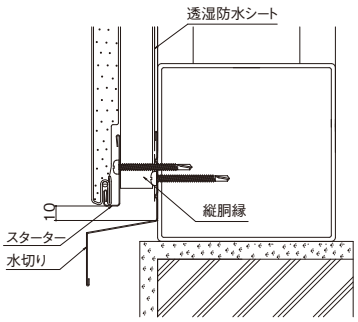
●下地の間柱、あるいは胴縁の間隔は606mm以下（1000mm以下の商品もあります）を標準として取り付けてく ださい。

※下地や胴縁の間隔はメーカーによって異なります。詳細については会員各社へお問い合わせください。

積雪のある地域では、雪の積もる高さまで303mm間隔以下とする等の対処をしてください。

●通気構法では、透湿防水シート等の上に横胴縁を施工し、金属サイディングを取り付けてください。

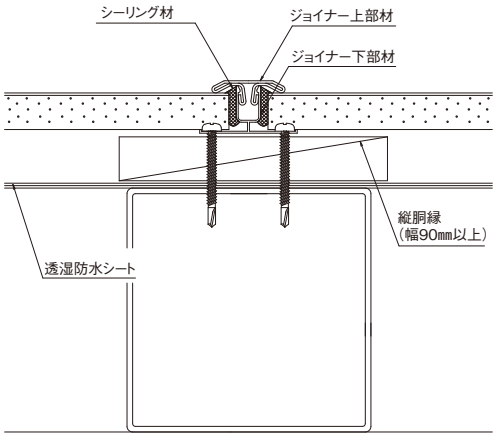
●透湿防水シート等の重ねしろは、鉛直方向で90mm以上、水平方向で150mm以上（構造用面材が無い場合は間柱間隔）としてください。



横継ぎ部分の納まり

●横継ぎ部分の部材（ジョイナー）には、本体（金属サイディング）の厚みや形状によって様々な分割タイプがあります。

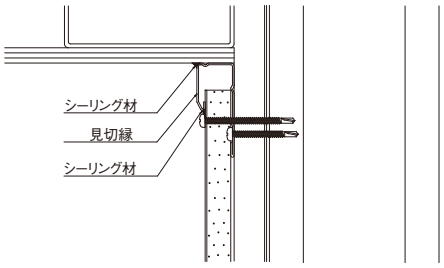
●ジョイナーと金属サイディングとの取り合い部には、必ずシーリングしてください。



軒部の納まり

●軒部分の納めには、見切縁を使用してください。

●軒裏、小屋裏へ通気ができるように胴縁を施工してください。

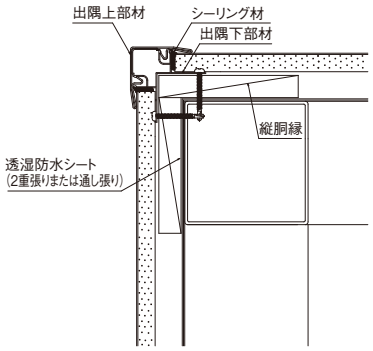


出隅部分の納まり

●出隅部分では透湿防水シート等を2重張りまたは通し張りにしてください。

●金属サイディングと部材との取り合い部には、必ずシーリングしてください。

分割タイプ使用例



水切り(部材)の出隅部加工法

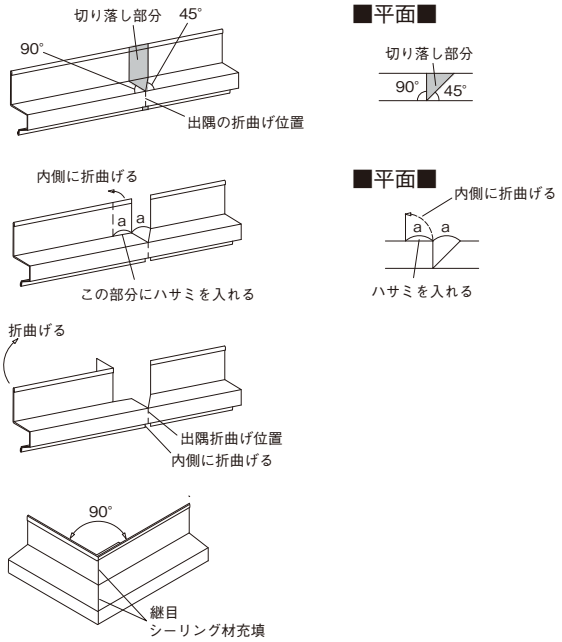
●出隅の折曲げ位置を決めます。次に、図のように一方を90°、他方を45°の方向に切り込みを入れ、切り落します（水切下部の加工も同じ）。

●90°の側の水切り立上がり下部に、切り落し部分の寸法に等しくa寸法をとり（図示）、この部分にハサミを入れます（水切下部の加工も同じ）。

●水切り立上がりの一部を、図のように内側に90°折曲げます（水切下部の加工も同じ）。

●出隅の折曲げ位置で全体を90°に折曲げます。継目部分にシーリング材を十分に施します。

出隅部加工

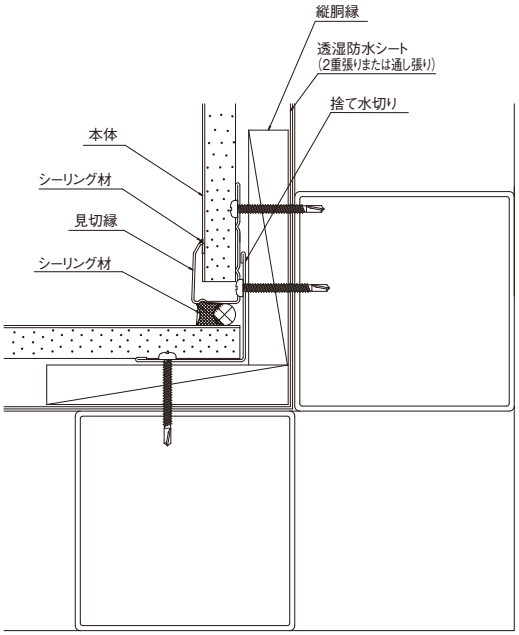


入隅部分の納まり

●入隅部分では透湿防水シート等を2重張りまたは通し張りにしてください。

●金属サイディングと部材との取り合い部には、必ずシーリングしてください。

見切縁使用例



水切り(部材)の入隅部加工法

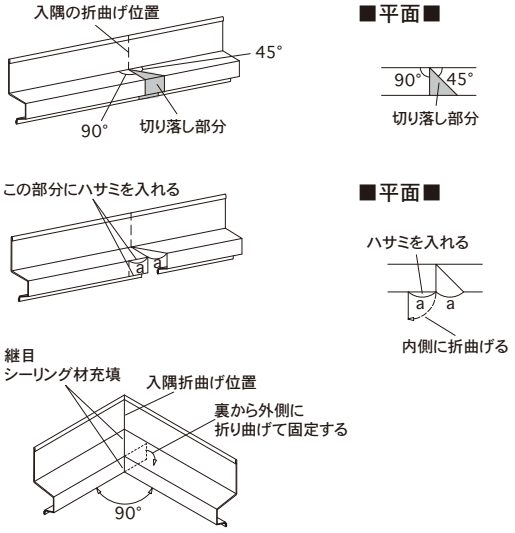
●入隅の折曲げ位置を決めます。次に、図のように一方を90°、他方を45°の方向に切り込みを入れ、切り落します(水切下部の加工も同じ)。

●90°の側の水切り立下がり部に、切り落し部分の寸法に等しくa寸法をとり(上下2箇所)、この部分にハサミを入れます。

●入隅の折曲げ位置で全体を90°に折曲げます。次に、ハサミを入れた立下りの一部を、裏から90°外側に折曲げて固定します(水切下部の加工も同じ)。

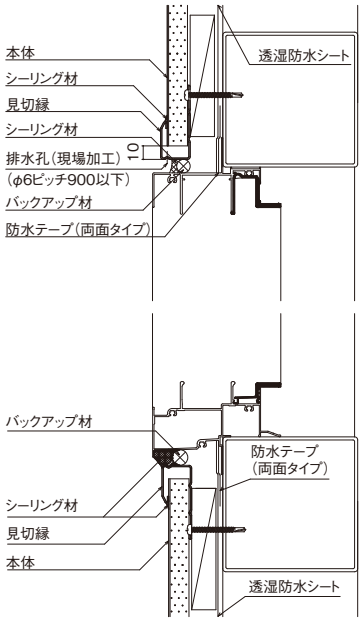
●継目部分にシーリング材を十分に施します。

入隅部加工

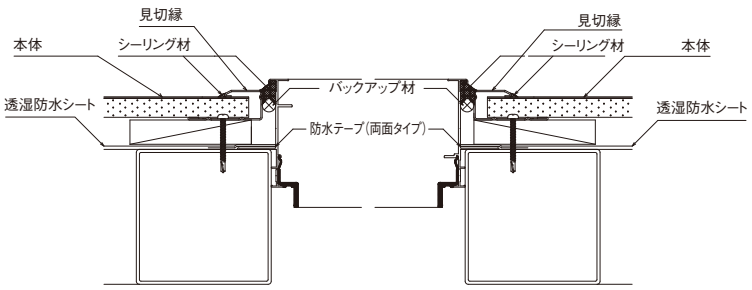


半外付けサッシ回りの納まり

●窓回り(開口部回りや換気口回りを含む)の納めには、雨仕舞に万全の注意が必要です。予め防水テープ(両面接着)を貼った後に透湿防水シート等を張り、浮き、シワのないように強く圧着させてください。また、サッシと部材の隙間等には、必ずシーリングしてください。

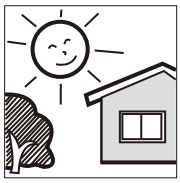


見切縁(排水孔付)使用例



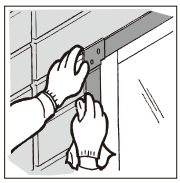
※施工要領の詳細は、各会員各社にお問い合わせください。

シーリング工事



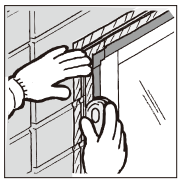
1. 施工前の天候確認

シーリング工事は晴天の日に行ってください。前日が雨や雪の場合は、接着面が十分に乾燥している状態を確認の上、施工してください。悪天候下、気温5℃以下でのシーリング工事は、密着不良の原因となりますので絶対に行わないでください。



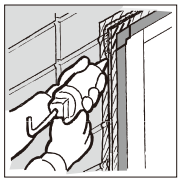
2. シーリング面の清掃

シーリング面のゴミ、油分、水分はスポンジややわらかい布等で除去してください。シーリング面にゴミ、油分、水分が残っていると、シーリングの密着不良の原因となります。



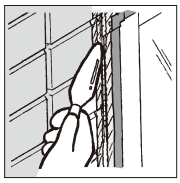
3. マスキング（養生）テープ張り

シーリング面の両側に沿ってマスキングテープを貼ってください。



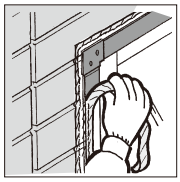
4. シーリング材の充てん

シーリング幅に合わせたノズルで気泡、打残しに注意し、シーリング材を隅々まで盛り上げるように充てんしてください。充てんが不足すると密着不良の原因となります。



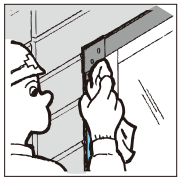
5. ヘラ押え

ヘラやナイフ等を使いシーリング材を押し込むようにして表面を平滑にしてください。ヘラ押えが不足すると密着不良の原因となります。



6. マスキングテープのはがし

シーリング材が硬化しない間にマスキングテープを棒切れ板等に巻きつけながらはがしてください。



7. 清掃

マスキングテープの糊、充てん箇所以外に付着したシーリング材はきれいに布で拭き取ってください。拭き取りが不十分ですと、変色や汚れ付着の原因となります。

8. 仕上りのチェック

充てん作業終了後、目視にてシーリング材の打残し、表面の凸凹、気泡等の仕上り状態をチェックしてください。

⚠ 注意

プライマー処理が必要な場合があります。詳細は会員各社にご確認ください。

施工例写真

新築例

会員一覧

アイジー工業株式会社
〒999-3716 山形県東根市蟹沢上縄目1816-12
Tel 0237-43-1830 / Fax 0237-41-1830

株式会社LIXIL
〒141-0033 東京都品川区西品川1-1-1 大崎ガーデンタワー19階
Tel 050-1970-5765 / Fax 03-6837-1662

ケイミュー株式会社
〒540-6013 大阪府中央区城見1-2-27 クリスタルタワー13階
Tel 06-6945-8081 / Fax 06-6945-8071

株式会社チューオー
〒322-0014 栃木県鹿沼市さつき町13-2
Tel 0289-76-3261 / Fax 0289-76-3267

東邦シートフレーム株式会社
[建材事業部]
〒276-0022 千葉県八千代市上高野1812
Tel 047-484-0100 / Fax 047-484-2244

日鉄鋼板株式会社
〒103-0023 東京都中央区日本橋本町二丁目2番5号 日本橋本町二丁目ビル7～9階
Tel 03-6848-3770 / Fax 03-6880-2860

株式会社ヨドコウ
〒541-0054 大阪市中央区南本町4-1-1
Tel 06-6245-1256 / Fax 06-6245-2257

YKK AP株式会社
〒101-0024 東京都千代田区神田和泉町1番地 YKK80ビル
Tel 03-5610-8489 / Fax 03-5610-8432

2026年7月現在　50音順/敬称略